

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、個人消費に力強さを欠く状況が続いているものの、景気は緩やかな回復基調を維持しました。また、米国経済は各国との貿易を巡る動向が懸念される中、設備投資と個人消費は堅調に推移しました。一方、欧州経済については、通商上の緊張感や政治の不確実性が高まり、景気回復のペースは緩慢なものとなりました。アジア経済は、中国市場の一部で弱い動きも見られましたが、全体的に底堅く推移し、回復傾向を維持しました。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高2,477億円（前年同期比1.4%増）、営業利益207億円（前年同期比7.0%減）と、増収減益となりました。また、経常利益は232億円（前年同期比1.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は143億円（前年同期比9.9%減）とそれぞれ減益となりました。

(時計事業)

ウォッチ販売のうち、「CITIZEN」ブランドの国内市場は、「THE CITIZEN」等の高価格帯製品が引き続き堅調であったことに加え、中価格帯製品についても、創業100周年限定商品が好調に推移した他、「xC」、「ATTESA」、「PROMASTER」等の主力製品が売上を牽引しました。

海外市場においては、欧州市場に弱さが見られたものの、北米市場、中国・アジア地域が底堅く推移し、海外市場全体では増収となりました。北米市場は、デパートや宝飾チェーンが復調の兆しを見せている他、インターネット流通も継続して拡大しており、特に「PROMASTER」や衛星電波時計等の新製品が伸長しました。欧州市場は、政治不安の高まりが個人消費にも影を落としており、減収となりました。一方、アジア市場は、足下は減速感への懸念が高まっているものの、期初からの好調な経済環境の後押しもあり順調に推移し、中国を中心に売上を伸ばしました。

マルチブランドについては、「Frederique Constant」ブランドが厳しい市況感等により伸び悩む一方で、「BULOVA」ブランドが北米市場で新製品を中心に好調に推移した結果、マルチブランド全体では増収となりました。

ムーブメント販売は、市場の回復に力強さがなく高付加価値商品の需要が伸び悩む等、厳しい環境が続いており、減収となりました。

以上の結果、時計事業全体では、新製品の積極的な投入や広告宣伝投資を加速したことにより、完成品に持ち直しの動きが見られたものの、ムーブメント市場の回復が想定に届いておらず、売上高は1,270億円（前年同期比0.4%減）と、減収となりました。営業利益においては、重点施策の一つである高価格帯製品が伸長しましたが、ムーブメント販売の低迷等を補うには至らず、123億円（前年同期比23.2%減）と、減益となりました。

(工作機械事業)

国内市場は、自動車関連の他、医療、建機、住宅設備関連など幅広い業種で設備投資が堅調に推移し、増収となりました。

米州市場は、高水準の受注からの反動等を受け減速感が見られたものの、医療関連を中心に旺盛な設備投資が継続し、増収となりました。

欧州市場は、政情不安等による先行き不透明感が強まる中、ドイツで自動車関連等が堅調に推移した他、イタリアでも設備投資優遇税制の継続が確定となったことから市況は好調を維持し、増収となりました。

アジア市場は、米中貿易摩擦の影響による買い控えの動きもありましたが、中国で主要業種が堅調に推移した他、アセアン地域も自動車関連を中心に需要は底堅く、増収となりました。

以上の結果、工作機械事業全体では、国内外の好調な市況と当社グループの独自技術であるL F V（低周波振動切削）搭載機の販売増加が寄与し、売上高は542億円（前年同期比16.6%増）と、大幅な増収となりました。営業利益においては、好調な市況を背景とした大幅な売上増を受け、98億円（前年同期比33.5%増）と、大幅な増益となりました。

(デバイス事業)

精密加工部品の内、自動車部品は、自動車市場の需要拡大を受け、ブレーキ部品が国内向けを中心に堅調に推移した他、スイッチについても前年度大きく落ち込んだスマートフォン向けが回復し、精密加工部品全体で増収となりました。

オプトデバイスの内、チップLEDは、車載向けが引き続き好調に推移した一方で、照明向けは過熱する価格競争に追従せず、差別化製品の提案に注力したことから売上は伸び悩み、オプトデバイス全体で減収となりました。

その他部品は、水晶デバイスがスマートフォン市場の低迷等を受け伸び悩んだ他、強誘電性液晶マイクロディスプレイも、主要市場であるデジタルカメラ市場の停滞の影響を受け、その他部品全体で減収となりました。

以上の結果、デバイス事業全体では、精密加工部品が売上を伸ばしたものの、他の製品の落ち込みを補うには至らず、売上高は474億円（前年同期比5.9%減）と、減収となりました。一方、営業利益においては、収益を重視した販売戦略に注力したことから、28億円（前年同期比14.7%増）と、増益となりました。

(電子機器事業)

情報機器は、POSプリンターやバーコードプリンターの新製品が好調に推移したものの、フォトプリンターがメディアおよび本体共に大きく落ち込んだこと等により、情報機器全体では減収となりました。

健康機器は、海外向けの内、アジアや米州、中国向けが伸長しましたが、国内向けの落ち込みを補うには至らず、減収となりました。

以上の結果、電子機器事業全体では、主力の情報機器の伸び悩み等を受け、売上高は146億円（前年同期比4.3%減）と減収となりました。営業利益においては、売上高は減収となりましたが収益改善に向けた取り組みが奏功し、3億円（前年同期比17.2%増）と、減収増益となりました。

(その他の事業)

宝飾製品は、主力のマリッジリングが健闘しましたが、展示会販売での売上を落とした他、卸販売も厳しい状況が続いており、減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体では、主に宝飾製品の伸び悩みにより、売上高は44億円（前年同期比2.3%減）、営業利益は0億円（前年同期比51.2%減）と、減収減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ85億円増加し、4,184億円となりました。資産の内、流動資産は、たな卸資産が100億円、受取手形及び売掛金が84億円増加した一方で、現金及び預金が119億円減少したこと等により、98億円の増加となりました。固定資産につきましては、機械装置及び運搬具が10億円、工具、器具及び備品が6億円増加した一方で、投資有価証券が39億円減少したこと等により、12億円の減少となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ、未払費用が28億円、支払手形及び買掛金が25億円、電子記録債務が11億円増加した一方で、未払法人税等が26億円減少したこと等により39億円増加し、1,501億円となりました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、利益剰余金が68億円、為替換算調整勘定が7億円増加した一方で、その他有価証券評価差額金が35億円減少したこと等により46億円増加し、2,683億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、売上高、営業利益、経常利益が想定通りに進捗しているものの、中国工場閉鎖決定に伴う関連費用発生により特別損失を計上したこと等から、親会社株式に帰属する当期純利益が、前回予想を下回る見通しとなりましたので、業績予想を修正いたしました。

また、当会計年度の第4四半期以降の為替レートにつきましては、1 US \$ = 110円、1 EUR = 125円を想定しております。

2019年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|--------------------------|----------------|---------------|---------------|-----------------|--------------|
| 前回発表予想 (A) | 百万円 330,000 | 百万円 25,000 | 百万円 26,500 | 百万円 17,000 | 円 銭 53.41 |
| 今回修正予想 (B) | 330,000 | 25,000 | 26,500 | 15,000 | 47.13 |
| 増減額 (B-A) | 0 | 0 | 0 | △2,000 | - |
| 増減率 (%) | 0 | 0 | 0 | △11.8 | - |
| (ご参考) 前期実績 (2018年3月期) | 320,047 | 24,920 | 26,664 | 19,303 | 60.65 |